

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)熊本県民テレビ新社屋	階数	地上3F		
建設地	熊本県熊本市中央区大江2丁目153	構造	RC造		
用途地域	近隣商業地域・第二種中高層住宅専	平均居住人員	178 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	1,750 時間/年		
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年12月 予定	評価の実施日	2014年7月8日		
敷地面積	5,184 m ²	作成者	〇〇〇		
建築面積	2,684 m ²	確認日	2014年7月10日	$BEE(環境効率) = \frac{Q(環境品質)}{L(環境負荷)}$	
延床面積	6,312 m ²	確認者	〇〇〇		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★

★★★★

★★★

★★

★

—

A

B+

B-

C

BEE=1.8

BEE=1.0

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
—	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	60以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★★
80点以上100点未満	★★★★★
60点以上80点未満	★★★★
40点以上60点未満	★★★
40点未満	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

★★★

★★

★

—

—

排出率

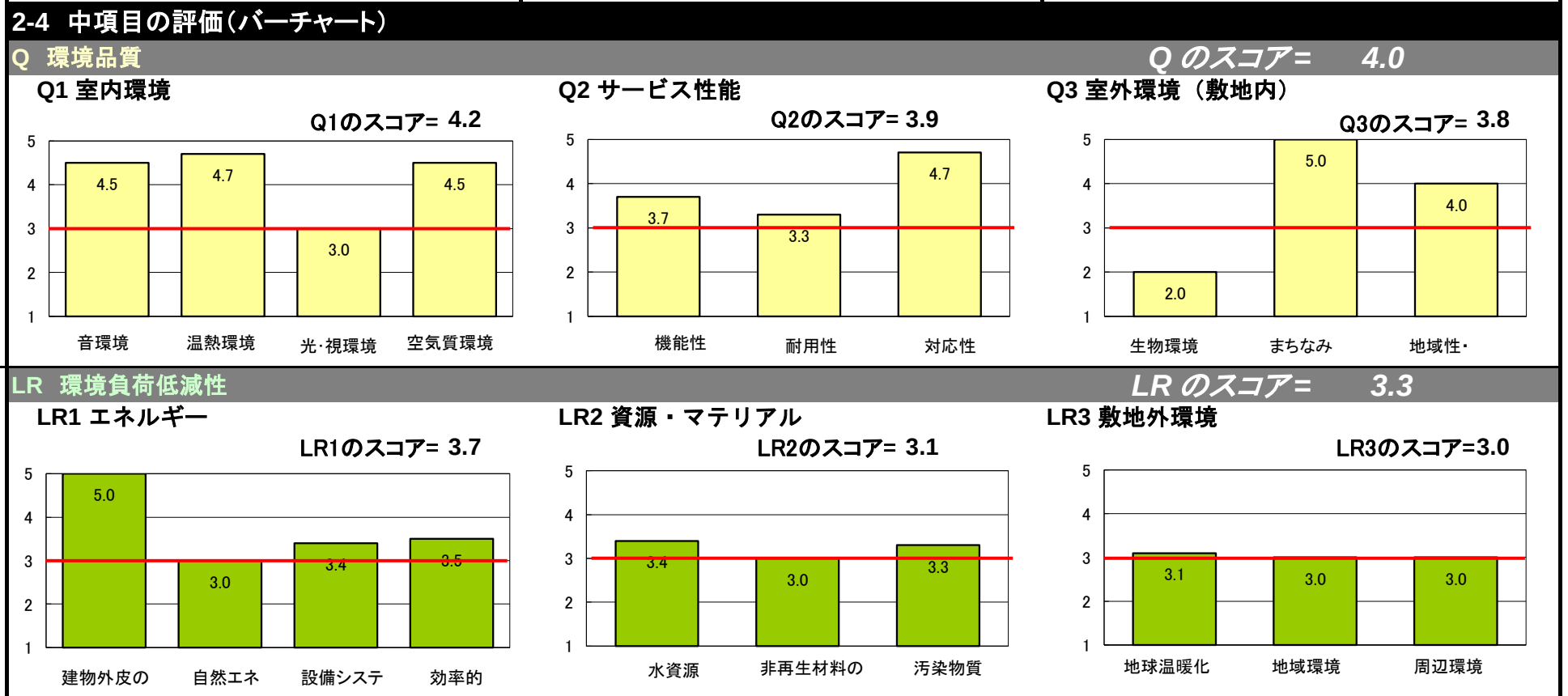
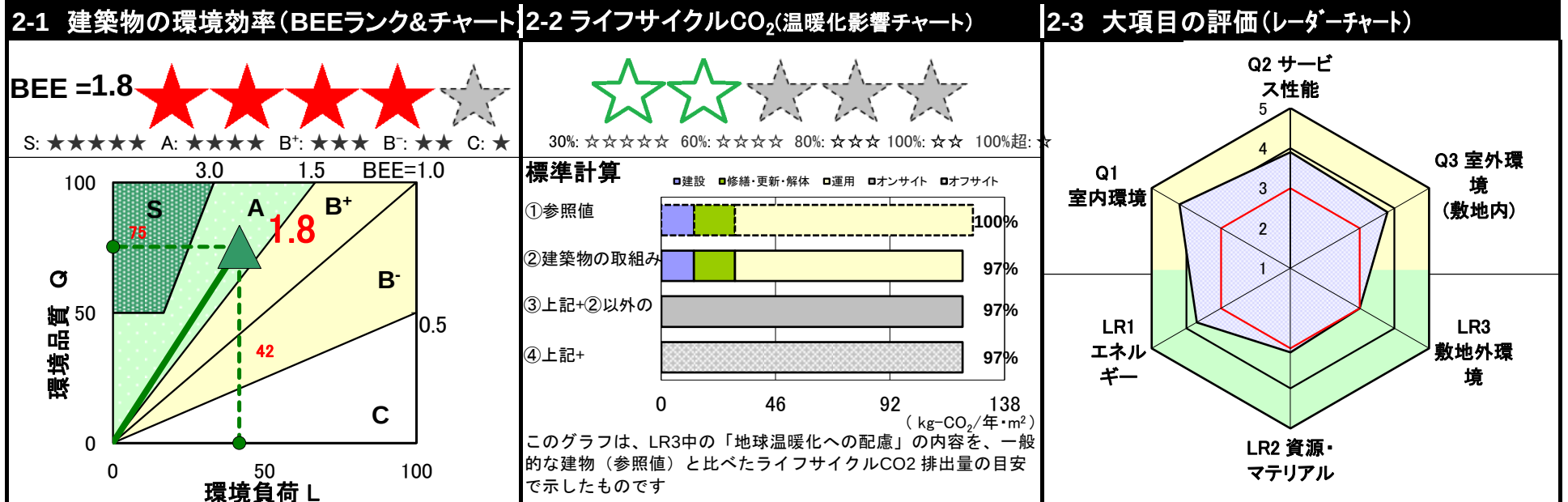
97%

2 熊本県重点評価結果	
■ 重点事項総合評価	
★★★★ 86	
評価点	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	86.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	76.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	92.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	87.7
※評価点は、100点以上が推奨です。	

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本県民テレビ新社屋	階数		
建設地	熊本県熊本市中央区大江2丁目153	地上3F		
用途地域	近隣商業地域・第二種中高層住宅専	RC造		
気候区分	6地域	平均居住人員		
建物用途	事務所	178 人		
竣工年	2016年12月 予定	年間使用時間		
敷地面積	5,184 m ²	1,750 時間/年		
建築面積	2,684 m ²	評価の段階	実施設計段階評価	
延床面積	6,312 m ²	評価の実施日	2014年7月8日	
		作成者	〇〇〇	
		確認日	2014年7月10日	
		確認者	〇〇〇	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)熊本県民テレビ新社屋■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									4.0
Q1 室内環境						0.40		-	4.2
1 音環境					4.5	0.15	-	-	4.5
1.1 騒音			スタジオNC-25等、主要放送関連室はNC-30以下		5.0	0.40	-	-	
1.2 遮音					3.8	0.40	-	-	
1			開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-	
2			界壁遮音性能		5.0	0.40	3.0	-	
3			界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4			界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音			スタジオ、主要放送室の吸音材グラスウールマットt=50mm		5.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境					4.7	0.35	-	-	4.7
2.1 室温制御					4.5	0.50	-	-	
1			室温		5.0	0.38	3.0	-	
2			外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
3			ゾーン別制御性		5.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御			冷暖同時のマルチ方式採用・ゾーン別にVAV設置		5.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式			空調機、外調機への2段加湿制御による設備容量確保 床吹き方式採用		5.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境					3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用					2.8	0.30	-	-	
1			昼光率		2.0	0.60	3.0	-	
2			方位別開口		-	-	3.0	-	
3			昼光利用設備		4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策					3.0	0.30	-	-	
1			昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度			マスター、サブ等主要放送関係室へタスク・アンビエント照明採用		4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境					4.5	0.25	-	-	4.5
4.1 発生源対策					5.0	0.50	-	-	
1			化学汚染物質		5.0	1.00	3.0	-	
2			アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気					3.3	0.30	-	-	
1			換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2			自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3			取り入れ外気への配慮		4.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理					5.0	0.20	-	-	
1			CO ₂ の監視		5.0	0.50	-	-	
2			喫煙の制御		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.9
1 機能性					3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ					3.3	0.40	-	-	
1			広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2			高度情報通信設備対応		4.0	0.33	3.0	-	
3			バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性					4.0	0.30	-	-	
1			広さ感・景観		4.0	0.33	3.0	-	
2			リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3			内装計画		5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-	
1			維持管理に配慮した設計		4.0	0.50	-	-	
2			維持管理用機能の確保		4.0	0.50	-	-	
3			衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.3	0.30	-	-	3.3
2.1 耐震・免震					3.0	0.50	-	-	
1			耐震性		3.0	0.80	-	-	
2			免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.30	-	-	
1			躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2			外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3			主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4			空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5			空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6			主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性	1		空調・換気設備	熱源は電気+(ガス/A重油併用)採用・BCP系統の確立・機器複数台設 節水器具・排水系統分け・非常用汚水槽設置・水槽は各2基 感染引き込み2系統	4.6	0.20	-	-	
	2		給排水・衛生設備		5.0	0.20			
	3		電気設備		5.0	0.20			
	4		機械・配管支持方法		3.0	0.20			
	5		通信・情報設備		5.0	0.20			
	通信手段の多様化				5.0	0.20			
3 対応性・更新性					4.7	0.30	-	-	4.7
3.1 空間のゆとり					5.0	0.30	-	-	
1		階高のゆとり	階高4000以上	5.0	0.60	3.0	-		
2		空間の形状・自由さ		5.0	0.40	3.0	-		
3.2 荷重のゆとり				5000N/㎡または6000N/㎡	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性					4.4	0.40	-	-	
1		空調配管の更新性	予備スリーブの確保・天井裏に点検用キャットウォーク設置	5.0	0.20	-	-		
2		給排水管の更新性	予備スリーブの確保	5.0	0.20	-	-		
3		電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4		通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5		設備機器の更新性	機器更新時のルート確保	5.0	0.20	-	-		
6		バックアップスペースの確保	主要機器は複数台設置・増設スペース確保	4.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出					2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				産業遺構の門保存、緑化等による景観配慮を行っている。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.0	0.30	-	-	4.0
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		街並みに配慮した色彩計画	5.0	0.50	-	-	
3.2		敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.7
1		建物外皮の熱負荷抑制		Low E 複合ガラス	5.0	0.20	-	-	5.0
2		自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3		設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.83	3.4	0.50	-	-	3.4
		集合住宅以外の評価(3a.3b)		熱源機器台数制御・変流量方式・外気冷房・CO2制御など採用	3.4	1.00	-	-	
		集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用					3.5	0.20	-	-	3.5
		集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1		モニタリング		BACNet採用	4.0	0.50	-	-	
4.2		運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
		集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1		モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2		運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1		節水		節水型便器使用	4.0	0.40	-	-	
1.2		雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
		1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	3.0
		2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.0	0.60	-	-	3.0
2.1		材料使用量の削減		ー 集成材	3.0	0.10	-	-	
2.2		既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5		持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	-	3.3
3.1		有害物質を含まない材料の使用		全て4スター品使用	4.0	0.30	-	-	
3.2		フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
		1	消火剤		-	-	-	-	
		2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
		3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮				高効率機械設備等の利用	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
2.1		大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2		温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3		地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
		1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
		2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
		3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	3.0
		4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1		騒音			3.0	0.33	-	-	
2		振動			3.0	0.33	-	-	
3		悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1		風害の抑制			3.0	0.70	-	-	3.0
2		砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3		日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.20	-	-	3.0
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

地デジ対応の機能性に優れた放送局。

Q1 室内環境

執務者の環境に配慮した空調、照度計画としている。

Q2 サービス性能

更新、メンテナンスに配慮しつつ、通信機器利用のしやすい機能性のある計画とした。

Q3 室外環境（敷地内）

メンテナンスのしやすさを重きに置いた。

LR1 エネルギー

ルーバー、高機能ガラスによって西日の日射遮蔽を行っている。

LR2 資源・マテリアル

標準使用できるリサイクル品の使用を行っている。

LR3 敷地外環境

一般的な配慮を行っている。

その他

とくになし。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)熊本県民テレビ新社屋

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	86
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.7	0.40	34.68
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				76.2	0.20	15.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	4.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				92.5	0.20	18.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	5.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				87.7	0.20	17.54
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	4.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数